

MLP マンスリー
2021年10月の
MLPの動きをザックリご紹介

2021年11月5日

当月のS&P MLP 指数の動き

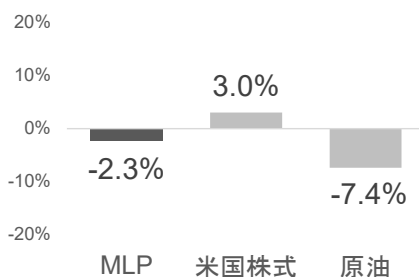
10月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+5.5%と2カ月連続での上昇となりました。

中国不動産開発大手の債務懸念やインフレ懸念などの悪材料を背景に、月初、米国株式市場は下落する場面がみられたものの、MLPは、原油価格の上昇などを背景に堅調に推移しました。中旬には、S&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)が今年6月に付けた直近高値を更新するなど、上昇傾向が続きました。しかしながら、下旬にかけては、7-9月期のMLP決算発表を控えて、市場に様子見姿勢が広がったことなどから、MLPは下落に転じました。

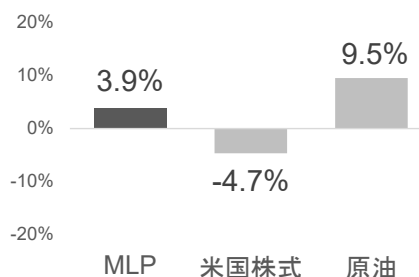
過去3カ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)

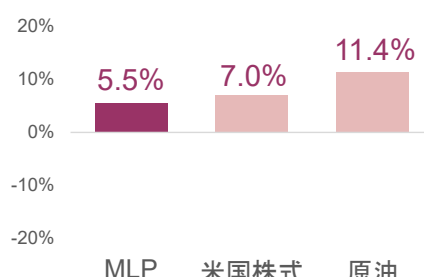
2021年8月



2021年9月



2021年10月



主要指標の動き

MLP:S&P MLP 指数、米国株式:S&P 500 種指数、原油:WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3か月前月末	前年末	前月末比	3か月前月末比	前年末比
	2021/10/31	2021/9/30	2021/7/31	2020/12/31			
S&P MLP 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	4,685.50	4,441.20	4,376.43	3,165.76	5.5%	7.1%	48.0%
プライスリターン	1,129.59	1,079.27	1,075.45	818.13	4.7%	5.0%	38.1%
S&P 500種 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	9,625.02	8,994.83	9,155.21	7,759.35	7.0%	5.1%	24.0%
プライスリターン	4,605.38	4,307.54	4,395.26	3,756.07	6.9%	4.8%	22.6%
S&P 500種 エネルギー株指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	887.49	804.15	750.12	561.47	10.4%	18.3%	58.1%
プライスリターン	436.19	395.88	372.99	286.14	10.2%	16.9%	52.4%
S&P 米国 REIT 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	1,813.82	1,683.46	1,748.43	1,369.91	7.7%	3.7%	32.4%
プライスリターン	396.57	368.43	385.01	306.79	7.6%	3.0%	29.3%
米国ハイイールド債 (ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス (米ドルベース))							
トータルリターン	1,565.68	1,568.47	1,559.44	1,498.42	-0.2%	0.4%	4.5%
プライスリターン	76.98	77.47	77.71	77.10	-0.6%	-0.9%	-0.2%
米国10年国債利回り							
	1.55%	1.48%	1.22%	0.91%	0.07	0.33	0.64
原油 (WTI) 米ドル/1バレル当たり							
	83.57	75.03	73.95	48.52	11.4%	13.0%	72.2%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり							
	5.43	5.87	3.91	2.54	-7.5%	38.6%	113.7%
米ドル(対円)							
	113.95	111.29	109.72	103.25	2.4%	3.9%	10.4%

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

当月の出来事いろいろ

- 原油価格については、4日に開催されたOPEC(石油輸出国機構)と非加盟産油国からなるOPECプラスにおいて、協調減産のより一層の縮小(増産)が見送られたことなどにより、上昇基調となった。その後も、冬場にかけてのエネルギー需給ひっ迫懸念などを背景に原油価格は上昇を続け、WTI原油先物価格は、26日に1バレル=84.65米ドルと、約7年ぶりの高値を付けた。
- OPECプラスが増産に対して難色を示しているのは、新型コロナウイルスの感染再拡大が、再び原油需要を減少させかねないとの警戒感があるとみられる。サウジアラビアのエネルギー相は23日、新型コロナウイルスの危機は抑制されたが、終息したわけではないと述べた。また、ナイジェリアの石油資源相も、原油の増産に慎重な見解を示した。
- サプライチェーンの混乱に伴う品不足に加え、原油や天然ガスなどのエネルギー価格の上昇などを背景に、インフレ懸念が一段と拡がり、欧米を中心に利上げ前倒し観測が広がった。しかしながら、米国株式市場は、月初こそ下落したものの、中旬以降は、好調な企業決算内容が支援材料となって、上昇基調に転じ、主要3株価指数は、史上最高値を更新した。

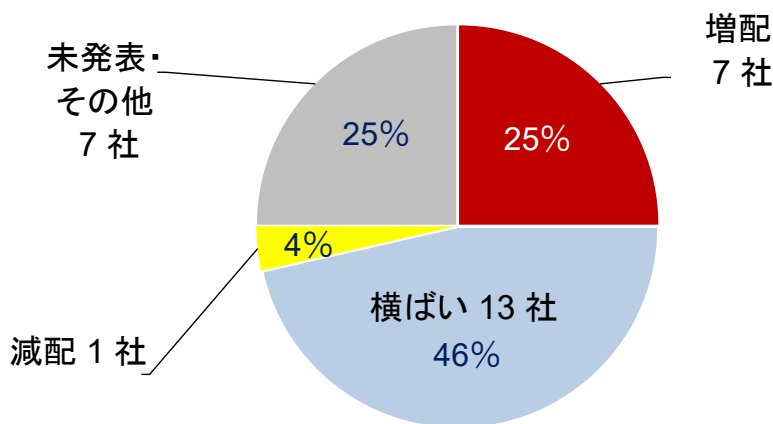
今後の注目点

- 2021年7-9月期のMLPの決算発表が注目される。

MLPの分配金動向

MLP各社は決算発表に先立ち、その期の分配金を発表するのが一般的です。10月から公表が始まっているMLPの2021年7-9月期の分配金は、10月末現在で、指数構成銘柄(28銘柄、2021年9月末時点)のうち、**22社の発表が終了しており、前年比での増配が7社、横ばいが13社、減配が1社、その他が1社**となっています。

<S&P MLP 指数の構成銘柄*の分配金額(前年比)の動向>
2021年10月末現在 * 2021年9月末時点

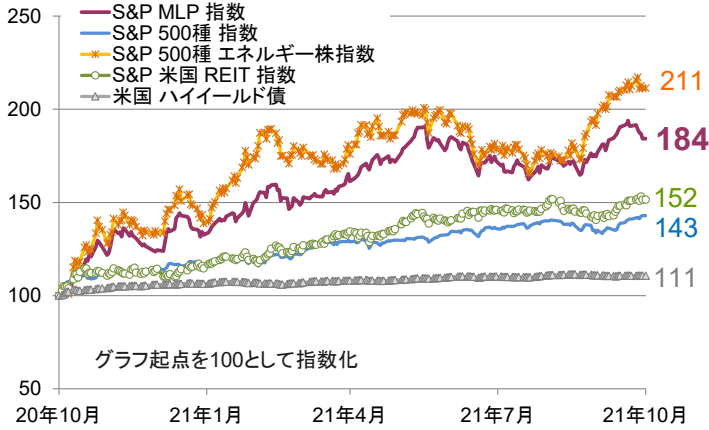


※ 左記の数値は四捨五入の関係で合計が100%と
ならないことがあります。

信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成
※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)

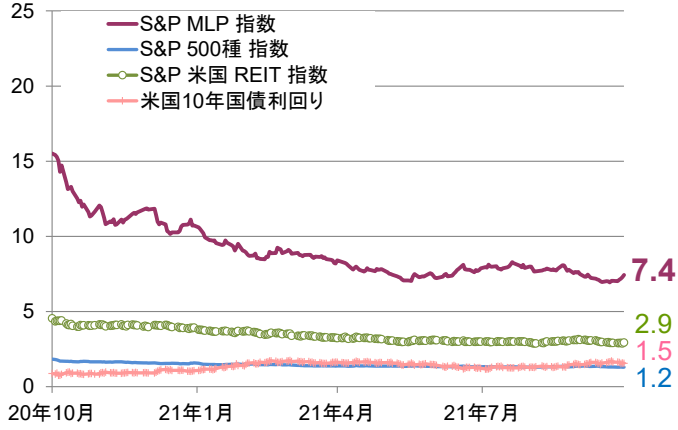
(2020年10月末～2021年10月末)



グラフ起点を100として指数化

■過去1年の各資産の利回り

(%) (2020年10月末～2021年10月末)



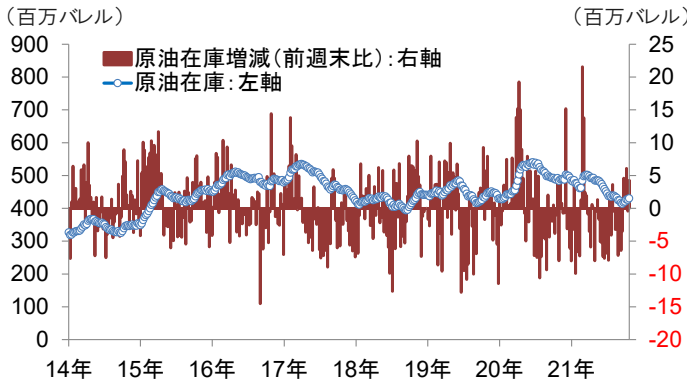
※各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。

※上記利回りは切り捨てにて端数処理しています。

※各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

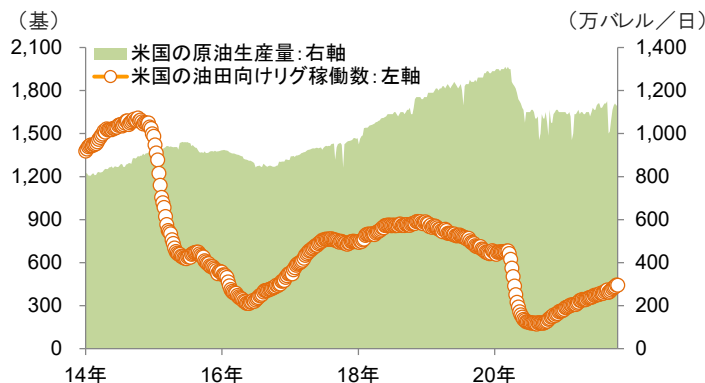
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2021年10月第3週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

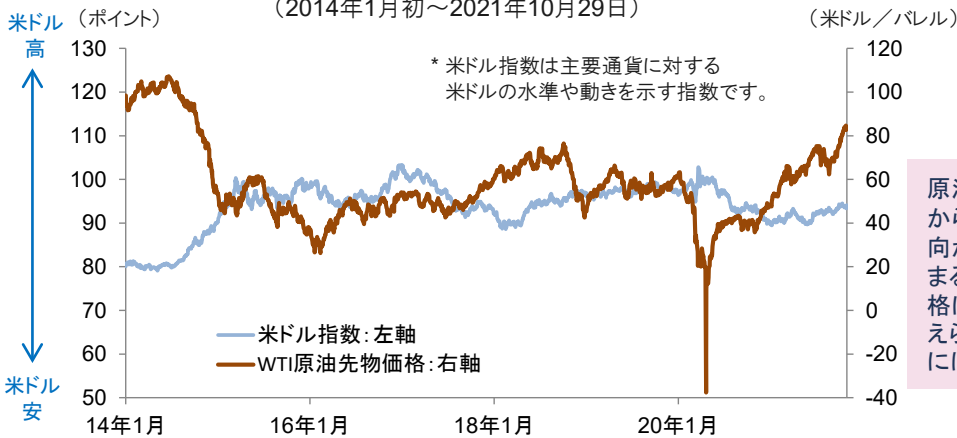
(2014年1月第1週末～2021年10月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給緩和と懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2021年10月29日)



* 米ドル指数は主要通貨に対する米ドルの水準や動きを示す指数です。

原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調が強まる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。